

地域で暮らす人々の健康と生きる力を 看護の力で支える

－「知の交流の場」としてのJANPセンターの取り組み－

東京慈恵会医科大学
地域連携看護学実践研究センター



東京慈恵会医科大学 医学部看護学科

佐藤紀子 北素子 内田満 櫻井尚子 嶋澤順子 谷津裕子 梶井文子

細坂泰子 高橋衣 志村友理 山下真裕子 佐竹澄子 清水由美子

室岡陽子 山本伊都子 浅川友祈子

慈恵第三看護専門学校 荒谷美香

東京慈恵会医科大学附属第三病院 渡部雅代 花岡一成



1

JANPセンターについて

東京慈恵会医科大学地域連携看護学実践研究センター



本日の内容

- I. JANPセンター設立の経緯
- II. JANPセンター3つの活動と活動を支える2つのグループ
 - 1. みんなの活動
 - 2. みんなの学び場
 - 3. みんなの保健室
 - 4. ニーズリソースマッチンググループ
 - 5. 広報グループ
- III. Covid-19 への対応



3

利益相反（COI）の開示について

日本看護学教育学会第30回学術集会

筆頭発表者 佐藤紀子

〔演題〕 地域で暮らす人々の健康と生きる力を看護の力で支える

－「知の交流の場」としてのJANPセンターの取り組み－

演題発表に関連して、開示すべきCOI関係にある企業はありません。

I. JANPセンター設立の経緯



4

JANPセンター設立の経緯

東京慈恵会医科大学地域連携看護学実践研究センター



- 2018年に「地域住民の健康と生きる力を看護の力で支える」ことを目指し、地域連携看護学実践研究センター(Jikei Academic Nursing Practice Center for the Community :JANPセンター)を設立
- JANPセンターは東京慈恵会医科大学看護学科の教員と学生が、地域自治体、保健医療福祉施設、そして地域住民の皆様と連携し、地域で暮らす方々の健康と生きる力を看護の力で支える活動の場として開設された



- 看護学生と大学院生に学修の場を提供
- 地域医療連携能力を備えた看護人材の育成に繋げる
- 実践フィールドを持たない看護教員にとっては専門性を生かした活動の場として実践力の保証・強化に繋げる
- さらに看護教員、大学院生が病院の看護師・医師をはじめとする多職種と連携して実践・研究活動を行うことで、ケアのエビデンスを生み出し発信する機能を持たせることを構想している



- 当センターは、同じ敷地内にある慈恵第三専門学校、そして地域基幹病院である東京慈恵会医科大学附属第三病院と連携して活動している
- Academic Nursing Practiceという言葉には、看護学の発展とヘルスケアの質の向上を目的とした学問的な立場における教育、研究、臨床ケアの意図的な統合を目指すことの意味が込められています
- JANPセンターの活動部門は、3つの部門とその活動を支える2つのグループで構成されています



Ⅱ. JANPセンター3つの活動と活動を支える2つのグループ



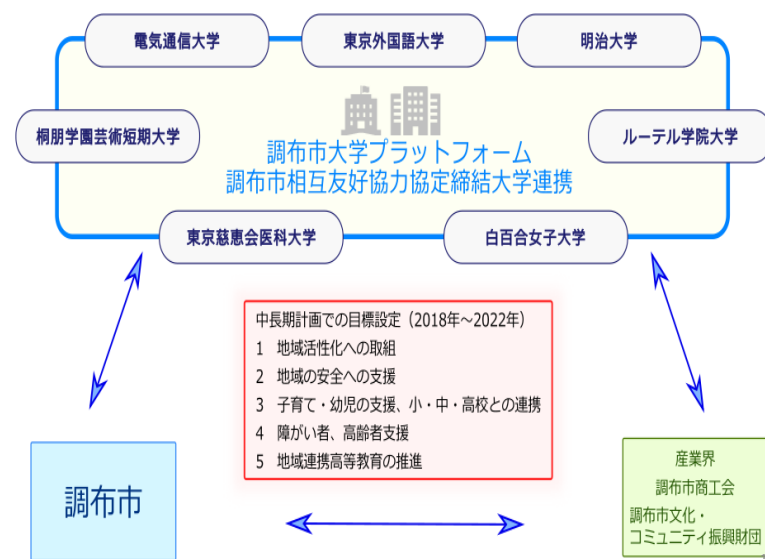
JANPセンター 3つの活動と活動を支える2つのグループ

JANPセンターが目指す姿

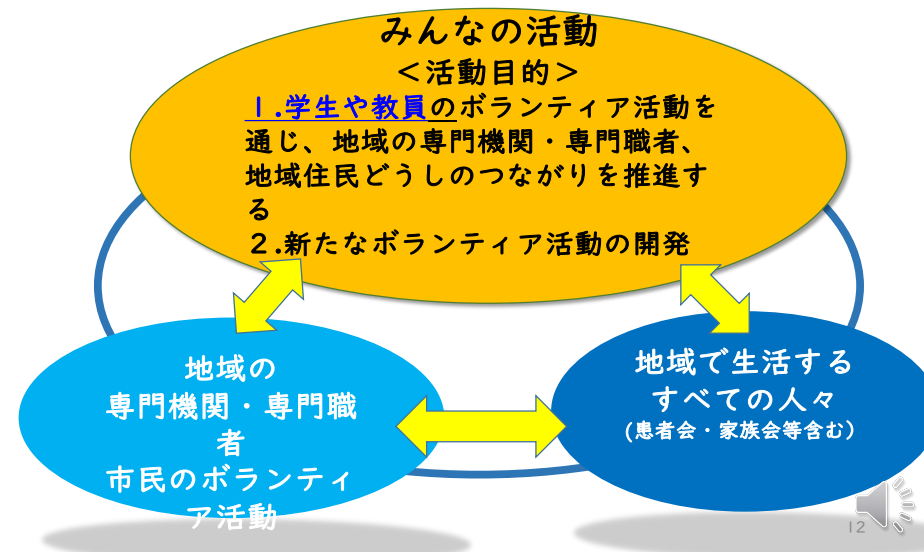
- 看護学教員，学生，第三病院看護部，地域の専門職者，地域住民の方々との「知の交流の場」となること
- 研究的アプローチを基盤とした看護の力で地域住民の生きる力を支える活動を共に推進すること
- 活動を通じて，これからの地域社会に必要とされる看護学の発展に寄与すること



調布市大学プラットフォーム「調布市相互友好協力協定締結大学連携」



1. みんなの活動



「みんなの活動」の実際

学生の活動

科目内

- ・ボランティア論
- ・サービスラーニング

科目外

- ・慈恵医大附属病院周産期センター開設に伴う移転のボランティア
- ・海外医療ボランティア
- ・災害ボランティア
- ・地域の福祉ボランティア

教員の活動

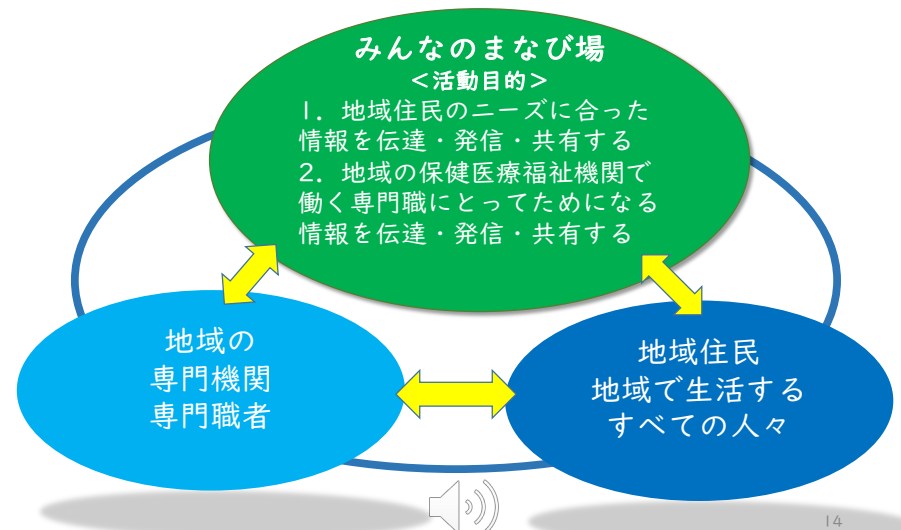
- ・ラグビーワールドカップ（2019）観客対応医療室看護師（味の素スタジアム）
- ・COVID-19関連支援
（第三病院看護部への支援、JANP遊び場保育室の開設、葛飾医療センター新人看護師の技術支援とメンタルサポート、看護専門学校遠隔授業準備支援）
- ・認知症家族支援、障がい者スポーツ支援、国際支援、地域防災活動等12活動

JANPセンター
「ボランティアハブステーション（VHS）」



13

2. みんなのまなび場



14

2019年度市民公開講座 「包括的フレイル予防」



楽しくなった
（楽しかった）

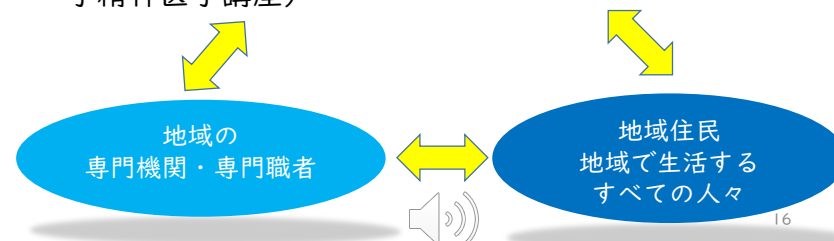


15

～ 2020年度の活動予定 ～

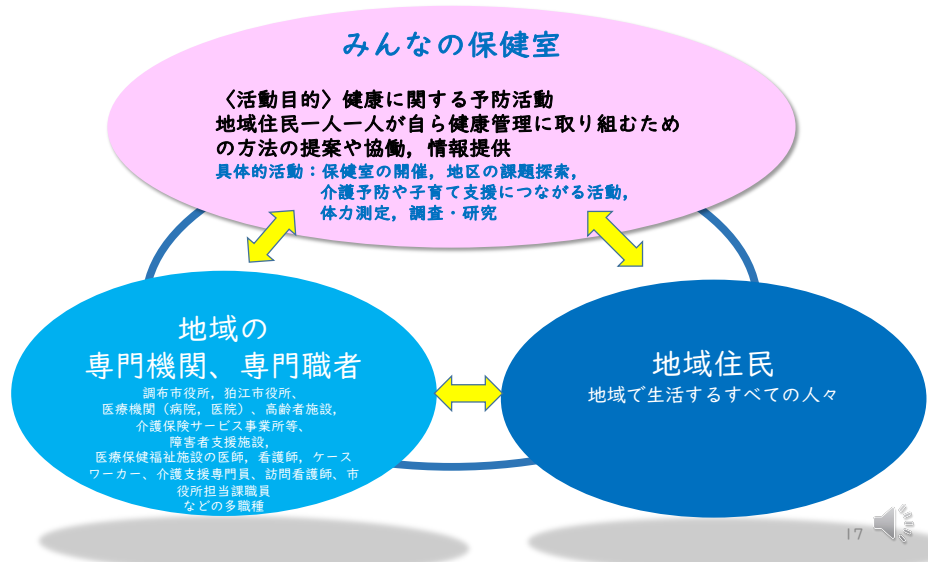


- ・市民公開講座
11/14（土）14～16時
 ・テーマ「今改めて認知症を考える」（仮）
 ・講師：繁田雅弘教授（東京慈恵会医科大学精神医学講座）
- ・小児在宅医療に関する学習会
 ・慈恵第三病院とのコラボレーション
 ・地域の課題を把握するためのニーズの掘り起こし



16

3. みんなの保健室



17

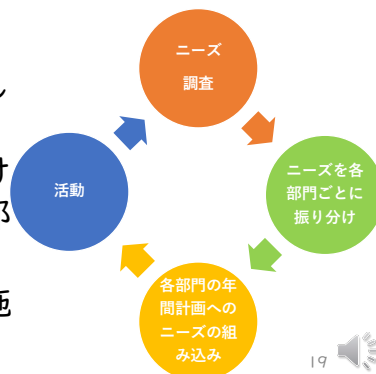
4. ニーズ・リソース・マッチンググループ

目的：

ニーズ調査を継続しながら看護学科教員の研究活動とのコーディネートを行う

活動内容：

- ①専門職・地域住民を対象にしたニーズ調査を実施
- ②各部門へのニーズの振り分け
- ③ニーズ調査結果をもとに各部門は活動計画の策定
- ④ニーズに合わせた活動の実施



19

みんなの保健室

試みは2017年から！



○看護学科4年生 総合実習

➡地域のニーズに基づいて、保健室を開設

○杉浦地域医療振興助成（50万円）



〒住宅版
避難所運営ゲーム
(HUG)

18

2019年度 ニーズ調査と調査結果

（一部抜粋）

【ニーズ調査】

- ・対象：公開講座やまちの保健室に参加された方、附属病院や実習施設等の地域の専門職を対象に実施した
- ・調査回数・調査人数：計12回・延べ295名から回収
- ・調査内容：JANPセンターで希望する講演会や研修・

自身の健康や保健医療サービスでの困りごとなど

【調査結果（一部抜粋）】

みんなの活動	みんなの学び場	みんなの保健室
・受診サポートや認知症の患者さんなど受診結果をノートに書くボランティア ・学生との交流の場 ・家族介護者の支援の場 ・地域住民の活動の支援	・小児の医療的ケアについての講習会 ・認知症の在宅支援や対応のコツについての講習会 ・転倒予防のための講座	・電話やメール等の健康に関する相談 ・外来では話せない相談の場や支援の場

20

今後の活動・課題

【今後の活動】

- 2019年度はフレイルをテーマに講演会を開催し、講演会やまちの保健室への参加者を中心にニーズ調査を行ったため調査対象に偏りが見られた

⇒子育て世代への調査を実施

- COVID-19により地域住民の生活や健康状態に変化をきたしている可能性がある

⇒地域住民や地域住民と関わる専門職を対象とした調査を実施

【課題】

ニーズを踏まえたJANPセンターでの活動の実施につながっているが、教員の専門性・研究とのコーディネートまで至っていない。専門性を活かした活動を通じた地域貢献を今後検討していく必要がある



21

ロゴ・ロゴマーク作成

親しみやすいロゴマークを作成
JANPセンターの活動にはこのロゴ・ロゴマークを使用
ロゴマークの印、シール、旗2種も作成



JANP Center 東京慈恵会医科大学
地域連携看護学実践研究センター

Jikei Academic Nursing Practice Center for the Community



1M x 1.5M



23

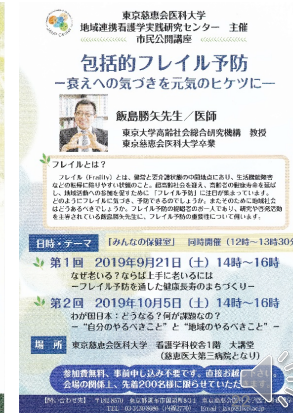
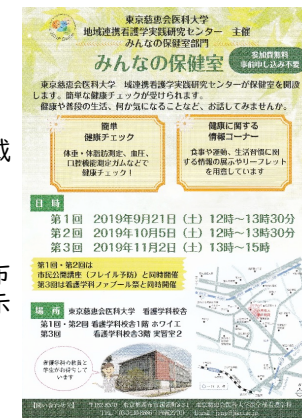
5.広報グループ

- 各部門の活動に対する広報（ポスター作成、広報誌への依頼等）
- 各部門の活動報告（慈恵新聞、The JIKEI、HP等）
- JANPセンターの今後の広報のあり方について検討し、必要な広報を図る

（例）

公開講座の広報活動

- ポスターの作成（1000~2000枚）
- 周辺地域の市報に掲載依頼
- 周辺地域の公式SNSへの掲載依頼
- 医師会へポスター配布
- 附属病院ポスター掲示
- 近隣団地への掲示

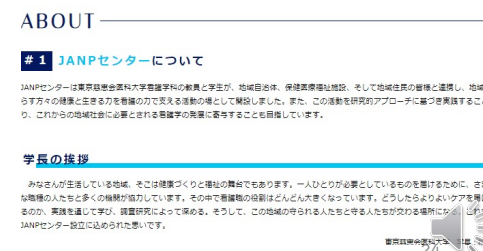


HP開設

- JANPセンターの活動を広く周知するために、2019年12月に誰でもアクセス可能な大学HP内に開設
(<http://www.jikei.ac.jp/univ/nurse/janp/>)



- タブは「JANPセンターについて」、「3つの事業」、「活動内容」の3つとし、ロゴやロゴマークを効果的に使用して、内容が分かるよう工夫した



24

Ⅲ. Covid-19 への対応



25

1. 第三病院看護部への応援

①病棟応援

期間：2020年4月20日～5月8日までの平日11日間

応援体制：7名の教員

場所：透析室、内科4病棟に専属

回数：延べ28回、平均4回/人/場所

時間：9～13時

応援看護業務：主に清潔ケアや配膳業務、
検査への移送、食事介助、

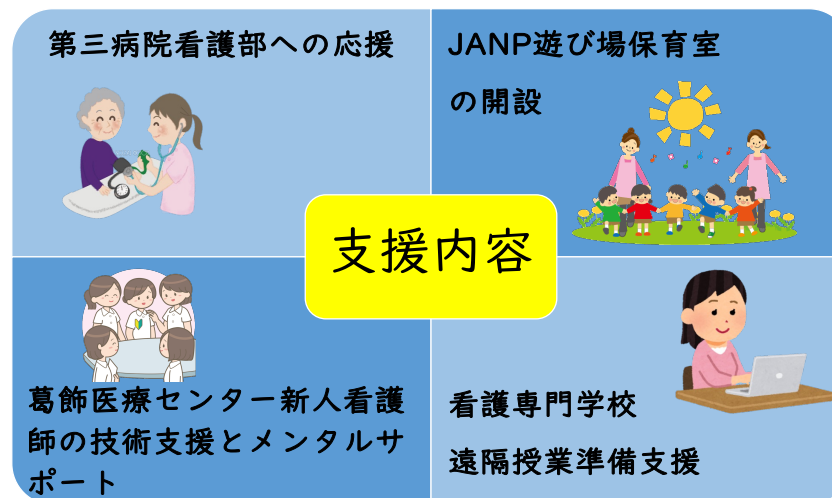
口腔ケア、認知症患者への対応等

帰結：5月以降に、病棟の入院患者の人数が減少により
5月8日までとなり、外来応援に変更となった。



27

JANPセンターのCOVID-19への対応



26

②外来応援

期間：5月11日～5月末の水曜日を除く平日12日間

応援体制：2名の教員、延べ12日、1人/外来

場所：外来総合案内での補助業務

時間：8時～11時30分

応援業務：

- ・ 総合案内での初診受付での相談
- ・ 種々の個別対応

(特に初診患者の発熱等の症状の有無を問診表による確認、
有症者のトリアージ、各隔離ブースや発熱外来ブースへの移動対応)

- ・ 有症者の待合ブースや記帳台、再来機の消毒
- ・ 外来の消毒液の補充などの環境整備



28

2. JANP遊び場保育室の開設

活動の目的: 病院の看護師の子どもで新型コロナウイルス感染症の影響で保育園・学童に行くことができない子どもたちを預かり、看護師の通常業務ができるよう支援した

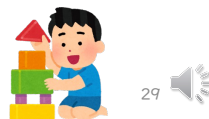
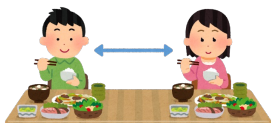
活動内容: 実習室に保育室を設置した。あそび場・ビデオ視聴の場・学習の場・食事の場・睡眠の場を設け、幼児と学童で1日のスケジュールを作成し、生活リズムを維持しつつも安全に楽しく過ごすことができるよう工夫しながら活動した

期間: 4月16日～5月29日

開園時間: 7:00～18:00

お預かりした子ども達: 延べ4月41名、5月167名計208名 年齢:1歳から9歳

教員: 7:00～13:00、12:30～18:00と2部構成でシフトを組み、午前午後各2名計4名ずつ対応した。支援に関わった教員は延べ147名だった。



29

子ども達の安全と感染予防対策

- ・子どもと教員の健康チェック
- ・使用した寝具等の洗濯の徹底
- ・保育室の掃除・物品の消毒を徹底
- ・手洗いうがいの徹底
- ・3密とならないよう環境を工夫



衛生材料・物品調達

- ・消毒物品が入手困難
→ 病院との調整
- ・遊び道具の不足
→ 院内保育や子育て経験者の教員からの寄付
- ・外遊び後の子どもと保育室の清潔維持

子ども達との生活

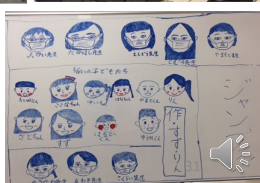
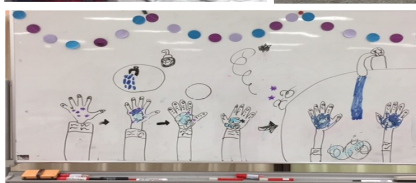
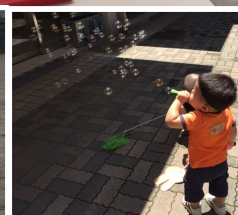
- ・幼児・学童に分け1日のスケジュールを設定
- ・楽しさを大切に
- ・学習時間はちょっと厳しく
- ・みんなでできる遊びの工夫
- ・熱中症に注意
- ・けんかの仲裁

教員のシフト調整

- ・早朝6:30の出勤
- ・子どもの人数が多い日の応援確保
- ・毎日メールで情報共有
- ・遠隔授業や遠隔実習等、教員の仕事との両立

30

子ども達の様子



3. 葛飾医療センター新人看護師の技術支援とメンタルサポート

活動の目的

- ・葛飾医療センターに就職した新人看護師に対する技術教育およびメンタル支援を行う

支援の実際

- 新人看護師の技術演習の実施

演習時間: 1回90分

演習内容: 口腔・鼻腔吸引、口腔ケア

担当者: 基礎、成人、老年看護学を専門とする教員3名

演習構成: ①導入(自己紹介) ②要点の確認、実技、フィードバック ③質疑応答



シミュレーターに実施する場であったが、臨床現場を想定しながら真剣に学ぶ姿勢が見受けられた

32

●新人看護師のメンタルサポート

- ①各病棟のラウンド（週2回）
- ②個別相談（師長の要望や希望者に応じて実施）
- ③メンタルヘルス研修

研修時間：1回90分

研修内容：セルフモニタリングやストレスマネジメント

担当者：精神看護学を専門とする教員

帰結：6月以降は多職種で構成された葛飾メンタルサポートチームが引き続き対応

学生から新人看護師へと役割移行する実相を垣間見れたことは、臨床の場での役割移行や自己のキャリアを追求できる看護職の育成に向けた基礎教育の方策を考える貴重な体験となった

33

支援の実際（続き）

- 4月13日～ 医学科・看護学科の授業の一部を専門学校でも閲覧できるよう紐づけ
支援担当教員が随時メールや電話で相談対応
- 5月11日～ 健康チェック・オリエンテーションのe-learning化
- 5月18日～ すべての授業のe-learning化

課題となったこと

- ・政府の対応が直前にならないと分からなかったため、自宅待機が長期になるのか分からず、e-learningに二の足を踏んだ
- ・学生によっては、e-learningに必要な機器の保有がない
- ・動画など通信量が多く、負担がある
- ・授業が受け身
- ・教員のオンライン授業に対する学習の必要性
- ・課題のフィードバックに対する教員の負担の増強
- ・非常勤教員に対する支援の必要性
- ・出席要件とする課題の設定



4.看護専門学校遠隔授業準備支援

活動の目的

オンライン授業を行っていなかった、慈恵附属看護専門学校の授業・実習に対する遠隔授業（e-learning化）を支援する



支援の経緯と実際

- 2020年3月 小学校・中学校・高等学校・特別支援学校への臨時休校の要請
- 4月4日 東京慈恵会医科大学医学部（医学科・看護学科）のすべての科目でオンライン授業開始
看護専門学校は自宅待機
- 4月13日～ 看護専門学校生の開始日を5/11（健康チェックのe-learning化）5/18（すべての授業のe-learning化）とし、医学科教員および看護学科教員でオンライン授業の研修を実施（対象教員全員が受講）

34

ご意見お待ちしております!!

地域包括ケアシステムの整備が進む中で、大学には、あらゆる世代の健やかな暮らしを支える社会資源のひとつとして位置づけ、その地域に貢献することが求められている。

地域で暮らす人々の健康と生きる力を看護の力で支えるための具体的な方法や課題について意見をお寄せください。

ご意見
お待ちしております。



連絡先
佐藤紀子
E-mail: nrk.sato@jikei.ac.jp

36